

鉄道の斜面管理手法に関する論文を発表

—「IMTERA2025 年度研究発表会」—

「確かな技術で、社会づくりに貢献する」をミッションとする株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング（本社：東京都台東区、代表取締役社長：遠藤一郎、以下 ATK）は、非営利共益法人・統合物性モデル技術研究組合（IMTERA）が主催する「2025年度研究発表会」において、斜面管理に関する研究成果を発表いたしました。

IMTERAは、災害の激甚化が進む中、分散する防災関連データを活用・統合し、統合物性モデルを構築することで、防災技術（地震・液状化、斜面災害、洪水災害等）の高度化と社会実装を推進し、国土強靭化に資することを目的として2019年11月に設立された技術研究組合です。本年度の研究発表会は、2025年11月19日、岡山国際交流センター（岡山県岡山市）にて開催されました。

■ ATKによる発表概要

セッション

調査・評価

タイトル

鉄道会社における初期疑似飽和体積含水率を用いた新たな斜面管理について

発表者

片山 輝彦（当日は藤森 研治が代理発表）

概要

近年、異常気象に伴う大雨被害が激甚化しており、鉄道会社では沿線土構造物の安全性確保が重要課題となっている。法面保護工が未施工の斜面においても鉄道運行の安全を高い水準で確保するため、斜面安定性を定量的に把握する手法の検討が進められている。

本報告では、2024年に営業線切土斜面へ設置した斜面モニタリングシステム（ATK-SAMS）の適用事例を紹介するとともに、取得した計測データをもとに、降雨強度と体積含水率の関係について考察を行った。

ATKは、「品質・技術力で勝る会社になる」というバリューのもと、これからも技術開発と人材育成に取り組み、社会への貢献を一層推進してまいります。

以上